

様式第2号

視察研修先	新潟県魚沼市	氏 名	渡 邊 賢 一
視察研修項目	「学校再編に係るスクールバス導入・広域運営等」について		

1 はじめに

魚沼市は、日本有数の豪雪地域であり、その豊富な雪解け水に育まれた魚沼産コシヒカリは、日本のトップブランドとして知られています。また、特産品のユリは全国に発送され、地場産野菜などの農産品も魚沼ブランドとして発信されています。また、越後三山や守門岳浅草岳に囲まれた魚沼市は、観光スポットの多いことでも知られています。特に、尾瀬国立公園や越後三山只見国定公園をはじめとする大自然と、市内各地に点在する良質な温泉は全国にファンを持ち、毎年多くの観光客が訪れています。近年では農業をはじめとする体験や自然散策なども人気となっています。市内には多くの企業があり、よそにはない特殊技術なども開発されています。新たな工業団地も造成され、企業誘致も盛んです。

【資料】

直近の推計人口 31,465 人 13,082 世帯(2026年 4 月末)

一般会計 36,705,000 千円 2026年度当初

議員定数 18人

魚沼市市議会だより

<https://www.city.uonuma.lg.jp/uploaded/attachment/29376.pdf>

魚沼市学校再編計画案

https://www.city.uonuma.lg.jp/uploaded/life/39735_66916_misc.pdf

2 視察事項

「学校再編に係るスクールバス導入・広域運営等」について

魚沼市立小中学校再編方針(案)(2026年 3 月)

1.魚沼市の現状

全国的に少子化が進むことが予測されている中、魚沼市においても、児童生徒数の減少が続き、小学校では 1 学年 1 学級という学校が多くなっており、中学校でも全学年でクラス替えができない学校もあります。このような状況の中、令和 6 年 10 月に「魚沼市小中学校の教育環境の在り方検討委員会」を設置し、学校教育の質を維持し、子どもたちにとって望ましい教育環境とはどのようなものかを 1 年間にわたり検討した結果を令和 7 年 10 月に「魚沼市小中学校の教育環境の在り方に関する答申書」として

受け取りました。

答申の内容

・小学校 市内で 4 校程度に再編

→1 学年 2 学級以上を目安。2035 年度を目途

・中学校 市内で 1 校

→1 学年 3 学級以上を目安。2040 年度を目途

人口と児童生徒数の推移

・市の人口は、2020 年では、34,483 人(R2 国勢調査)となり、2005 年と比較して約 9,000 人が減少しました。児童生徒数は、2005 年度で、小学生 2,567 人、中学生 1,294 人でしたが、2025 年度には、小学生 1,326 人、中学生 692 人にまで減少しました。今後も少子化は進み、2035 年度には、小学生 715 人、中学生 516 人にまで減少すると見込んでいます。

【再編内容】

再編の基本方針

魚沼市小中学校の教育環境の在り方検討委員会からの答申を踏まえ、魚沼市立小中学校の再編に関しては、次に示す事項を基本的な方針とします。

(1)再編の考え方

小中学校の再編にあたっては、児童生徒数、通学区域(距離)、既存校舎の規模及び改修時期を考慮して進める必要があります。小学校では、適正規模の実現のほか、現在の学区を分割しないことと隣接した小学校同士での統合を原則とし、複式学級を解消し、集団での教育活動が充実できるよう順次統合を進め、令和 14 年度には市内 4 校を目指します。中学校は、教育の質を確保するために、全ての教科で専門教科教員を配置できる規模とし、令和 19 年度には市内 1 校とします。

(2)既存校舎の活用

校舎については、既存校舎を活用することで財政負担を軽減します。また、統合後の空き校舎についても、近隣の公共施設との統合等を含め地域の皆さんと検討します。

(3)通学区域(距離)について

学校の位置については、通学距離の均衡を図り、一部の児童生徒に過度な負担が掛からないように配慮することが望ましいものの、全ての学校を均等に配置することは現実には難しいため、公共交通とスクールバスを併用した通学手段を検討します。

(4)学校給食

給食については、現在、各学校の調理場とセンター方式での提供を行っています。小中学校の再編にあたって、新たなセンター建設はせずに、統合後の学校に設置している調

理場において学校給食を提供する予定です。

(5)放課後児童センター

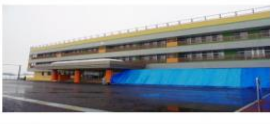
放課後児童クラブが設置されている学校と設置されていない学校があります。小学校の統合により、放課後児童クラブの設置場所や移動方法についても検討が必要です。

(6)環境の変化への配慮

学校の再編により子どもたちの学習環境等が大きく変化するため、次の項目等について配慮が必要です。

- ・統合前からの交流事業の実施
- ・子どもたちの見守り強化のため教員の加配を県教育委員会へ依頼
- ・地域の文化・芸能の継承
- ・地域との関わりの場の維持
- ・制服や体操着の変更に伴う保護者の負担感の軽減

小学校一覧

名称	学校写真	所在地等 ホームページ
堀之内小学校		魚沼市堀之内430-3 Tel : 025-794-2051 Fax : 025-794-5499 堀之内小学校 <外部リンク>
宇賀地小学校		魚沼市下島910-1 Tel : 025-794-2054 Fax : 025-794-5456 宇賀地小学校 <外部リンク>
小出小学校		魚沼市佐梨1060 Tel : 025-792-0041 Fax : 025-792-0205 小出小学校 <外部リンク>
伊米ヶ崎小学校		魚沼市虫野38 Tel : 025-792-0089 Fax : 025-792-3222 伊米ヶ崎小学校 <外部リンク>
湯之谷小学校		魚沼市七日市新田48 Tel : 025-792-0594 Fax : 025-793-1110 湯之谷小学校 <外部リンク>
広神東小学校		魚沼市中家新田77-1 Tel : 025-792-5611 Fax : 025-792-3508 広神東小学校 <外部リンク>
広神西小学校		魚沼市親柄107-1 Tel : 025-799-2013 Fax : 025-799-2019 広神西小学校 <外部リンク>
須原小学校		魚沼市須原980 Tel : 025-797-2024 Fax : 025-797-2984 須原小学校 <外部リンク>

※引用：うおぬま子育て応援ネット まめんこ HP より

■スクールバス運行 民間業者委託及び市直営 2 方式

1. 民間業者の内容

市内には、タクシー会社4社、バス会社1社の計5社が存在しており、2025 年度は運行業務委託には 7,710 万円、市直営と合わせて 9,427 万円が経費となっている。2026年度当初予算は、1 億 2000 万円に増大している。

◇経費面の課題

- ① 近年の大幅賃上げで人件費が上昇
- ② 物価高騰による燃料費、修繕費の上昇
- ③ 運転手不足、高齢ドライバーの事故増加で若年層人材確保の経費が上昇

◇運行上の課題

- ① 小中学校を巡回する複雑なルート
- ② 児童生徒の下校時間の違いにより運行時間の細分化
- ③ 乗車基準の見直しによる広域化 2.5 キロメートル→1.5キロメートル対象

◇安全面の課題

- ① 熱中症対策
- ② 熊出没対策
- ③ 不審者対策
- ④ 豪雪による歩道除雪が追い付かない中での交通事故対策

2024 年度の豪雪では、災害援助法適用の期間中、スクールバスによる送迎を拡大して対応した。

2. 児童生徒及び保護者の声

アンケートは行っていないものの各学校において学級懇談会や保護者面談で意見を把握している。バス通学への対象範囲拡大の要望が多くなっている。

3. 統廃合やスクールバス等の導入において、検討されてきたこと

〔環境の変化〕

- 新たな生活に戸惑いが生じることへ、統合前後において配慮が必要。

〔通学条件〕

- 通学距離が長くなるため、スクールバスの導入などの対策が必要。
- 通学時間が長くなるため、徒歩の時間の減少による体力の低下や、放課後の遊びの時間、家庭学習の時間の減少、児童の疲労への配慮といったことも課題となる。

〔地域コミュニティの核としての性格への配慮〕

- 地域のコミュニティの精神的支柱とも言うべき側面のある学校が無くなる。
- 学校は児童の教育のための施設であるだけでなく、各地域のコミュニティの核としての性格を有することが多く、防災、保育、地域の交流の場等の様々な機能があり、今後のまちづくりの在り方が変わる。
- 統合後の学校と地域との関係が希薄化することが懸念される。

中学校一覧

名称	学校写真	所在地等 ホームページ
堀之内中学校		魚沼市堀之内208 Tel : 025-794-2127 Fax : 025-794-6011 魚沼市立堀之内中学校 <外部リンク>
小出中学校		魚沼市古新田225-2 Tel : 025-792-0074 Fax : 025-792-0090 魚沼市立小出中学校 <外部リンク>
湯之谷中学校		魚沼市七日市32 Tel : 025-792-0295 Fax : 025-793-1109 魚沼市立湯之谷中学校 <外部リンク>
広神中学校		魚沼市田尻320-1 Tel : 025-799-2017 Fax : 025-799-2023 魚沼市立広神中学校 <外部リンク>
魚沼北中学校		魚沼市須原1423 Tel : 025-797-2010 Fax : 025-797-3209 魚沼市立魚沼北中学校 <外部リンク>

※引用:うおぬま子育て応援ネット まめんこ HP より

【質疑事項】

- (1) スクールバスを推進した経緯について
経済効率性、運行ルートの柔軟性、地域実情への対応によるもの
- (2) スクールバス、コミュニティバス、路線バスなど地域交通の総括について
制度的課題、運行上の課題などから新たに今年度から交通政策課を設置し、地域交通の課題を解決するため計画書をつくっている
→第2次地域公共交通計画書 2026年度から2030年度
- (3) 人材確保対策について
地域公共交通協議会で検討し、人材確保支援事業補助金制度創設、運転手処遇改善策を行っている

3. 所感

私は、学校統廃合に対しては基本的に反対、文部科学省が進める学校統廃合再編マニュアルに対しても多くの矛盾があり、市民団体の皆さんと「学校統廃合を考える会」を立ち上げ、活動を進めてまいりました。残念ながら、議会では反対少数で、計画案は賛成多数により決定されてしまいましたが、今後開校までの間、市民の皆さん児童生徒の立場に立って貴重なご意見を集約し、建設的な提言を行っていく所存です。

【資料】

一般質問における運転手不足及びスクールバスの問題(抜粋)

【2024 年 3 月議会】「運転手確保の問題について」

過去に一般質問でやりとりした議事録を見直しました。参考までに、資料として添付しました。文章の前後は、割愛させていただきます。

○渡邊賢一議員

深夜営業を含むハイヤー業や運転代行業のドライバー不足によるサービス低下と運賃値上げによる市民への深刻な影響についての質問でございます。

私は先日、市内のバスやタクシー、ハイヤー事業所で実態を伺ってまいりました。公共交通を担っている業界にしてはドライバーの給料が高くない。運賃は国が決めるため自社の裁量では値上げできない。ドライバーは、二種免許のハードルがあり、募集に応募がない。変形労働時間のため体がきつい。16 時間勤務もある。夜間に酒に酔った客の対応で非常にストレスが多い。そして、若い人ほど土日祝日の休暇を希望するんだけど、休日出勤を余儀なくされる。離職、若年退職者の増加、冬期間の季節労働にも募集が少ない。あと、さくらんぼの収穫最盛期も、土日勤務に限界があり、今行っているワンコインタクシーの需要に追いつかない。そして駅で待たせてしまう。ぜひ、これは半分冗談なんですけれども、深刻な話で、市職員の副業に公用車による運転もぜひ検討していただきたいと。そうしないと待たせてしまうというふうな声もございました。

先日2月 29 日の朝日新聞 17 面に、地域版の東北の企業倒産件数なども掲載されておりましたけれども、山形県は 54 件で、負債総額が東北で最大の 186 億 2,000 万円、コロナ関連の融資の返済が本格化する今、事業継続を諦めるケースが中小企業で大きくなっているというふうなことです。緊急経済対策の一般旅客自動車運送業者の支援策として、この運転代行業も含め、コロナ禍のような事業用車両台数による補助などは改めてできないものでしょうか。このままでは人材確保ができないばかりか、公共交通の関係事業の現状維持も厳しいというふうに思います。市長の御所見をお伺いします。

○佐藤洋樹市長

いわゆる2024年問題で、事業主の方の経営努力のみではなかなか対応が難しくなっているのではないかというふうに思っております。しかし、一方で、タクシーなどの運送業につきましては、地域の足であります。重要な交通インフラの一部というふうにも考えておりますので、市といたしましては、こうした状況に対してどのような支援の方法があるか、過去の事例などもあるわけでありますので、市民の皆さんへの影響を踏まえながら検討していきたいと考えているところであります。

一方、この問題については、寒河江市のみの問題ではありません。県、さらには国全体としても対策を講じていくべき課題というふうにも思いますので、必要に応じて市長会などを通じて要請・要望していく必要があると考えているところであります。

○渡邊賢一議員

これはぜひ検討していただきたいと思います。

次に、第二種免許取得経費の補助による人材確保について、これもございました。新年度予算に取得費用の補助ということで、新規事業、出されています。先進自治体の例を参考に、いかに推進していくべきか、現場における問題点なども御紹介しますと、費用が25万から30万円かかると。国や自治体の補助がないと高額過ぎる。短期合宿でも2週間で、普通は1か月間の取得期間になると。会社において補助制度もありますけれども、土日祝日や深夜・早朝勤務に若い人材が嫌になって、せっかく取得しても、資格を持って離職、中途退職してしまうというふうなことが悲鳴として挙げられておりました。新年度予算も含め、人材確保に向けて、さらに補助を増やし、実質自己負担ゼロにすべきだと思いますが、市長の御所見をお伺いします。

○佐藤洋樹市長

御案内のように、来年度当初予算に第二種免許取得に係る支援事業費を計上させていただいております。バス、タクシー業界での運転手不足の解消の支援ということですが、これは従業員の方が二種免許を取得する場合に経費の2分の1を助成するというものでございます。一方、県において、令和5年度の補正予算で、同様の2分の1の補助制度を設けているところでありますので、来年度、市と県の制度を活用することになれば、実質的に事業者負担をほぼゼロという形で、事業者の運転手の皆さんの確保に大いに後押ししていけるのではないかと考えているところであります。

○渡邊賢一議員

了解しました。画期的なやっぱり施策だと思いますし、ぜひ寒河江のドライバーを確保する、人材確保するためにも、これをさらに宣伝していただいて、この募集に応じていただくような若い人材に届けていただきたいなと思います。

さて、いわゆる「白タク行為」で、業界団体から強く反対されている「ライドシェア」問題

についてでございます。国の法律が制定されようとしている中で、業者の方は大変な危機感を持っていらっしゃると思います。ライドシェアとは、簡単に言うと一般のドライバーが自家用車を使って有料で人を運ぶことで、もともと白ナンバーでタクシー営業するいわゆる白タク行為として禁止されていたのが、タクシー会社とかドライバーが確保できないということから規制緩和の動きで、御案内のとおり、秋の臨時国会においても俎上に上がってきたのでございます。タクシー業界がなぜ反対しているかという、現状より2割から3割安いことも多く、多くの客が取られる。安全性が担保されない。無資格なので事故の対応もできない。女性などが犯罪に巻き込まれる。女性ドライバーも狙われる。万一の場合の補償、事業用自動車保険による賠償とはならないため、同乗者に対して十分な補償ができなくなる。あるいは、無保険車も出てくるのではないかとというふうに言われておりました。こうした問題を踏まえ、本市のハイヤー業界の防衛策について、市長に基本的な考え、御所見をお伺いしたいと思います。

○佐藤洋樹市長

ライドシェアの問題でありますけれども、現在、道路運送法の規定によって、自家用自動車で有償運送というのは、福祉有償運送などの例外を除いては禁止されているわけがあります。一方、全国的にはライドシェアの実証実験などを行っている自治体もあるというふうに聞いているわけがありますけれども、先ほど御指摘ありましたとおり、日本においてライドシェアを導入する場合は、ドライバーの運転技術、それから安全性、タクシー事業者への影響など様々問題・課題があるという意見もありますので、国の動向などを注視していく必要があるというふうに思います。また一方で、地域交通の充実確保というのも、我々にとっては喫緊の課題、守っていかなくちゃならないということもあります。いずれにしても、我々としては、地域の事業者、なりわいというものを大事にしていかなければなりませんので、タクシー事業者など関係者の皆様の声なども十分お聞きをしながら、適切な対応をしていかなければならないと考えているところであります。

○渡邊賢一議員

能登半島地震で明らかになった災害時の対応、運送ということでいうと、ライドシェアとかカーシェアは貴重な移動手段、代替手段になっている場合もございます。一概に、だから駄目とは言えないと思います。緊急時の本市のそうした特例なども今後何らかの形で規定しておいたほうがいいのではないかとこのように思っております。

【2023 年 12 月議会】「スクールバス問題」

これも資料として参考までに添付し、文章の前後は割愛させていただきます。

○渡邊賢一議員

長時間拘束され大変不便なスクールバス通学の精神的苦痛と経済的負担について。これは、教育長からあった保護者の賛成意見の中に、冬期間は特に家族が生徒の送迎をしなければならないからスクールバスがあると助かる、ぜひお願いしたいなどと拝見しました。スクールバスの新たな導入についてどのように受け止められているか、市民の皆さんはそれぞれだと思いますが、きちんと説明されないと、バスダイヤや費用負担、生徒の拘束時間などで変に誤解されるのではないかと思います。きちんと説明すべきであります、教育長の御所見をお伺いします。

○佐藤志津男教育長

前回の議会でも申し上げましたが、国の基準等では、通学距離は中学校でおおむね6キロメートル以内、通学時間は1時間以内が目安となっております。ただ、統合中学校の通学に関しては、現段階では、おおむね4キロメートルを超えるような場合はスクールバス等での通学を検討しております。計画改定後に統合準備委員会を開催し、時刻表や乗降場所等については利便性を考慮し、検討してまいります。経済的な負担につきましては、生徒の通学に関わる費用については市で負担する計画でございます。また、スクールバスの運行につきましては、教育課程と連動させ、待ち時間を短くするなどの配慮を行いつつ、生徒のストレスの軽減に努めたいと考えております。

○渡邊賢一議員

これもアンケートの中に出てくるわけですが、本当にスクールバスによって市にどれぐらい負担がかかるんだというふうな意見もあったわけです。1台当たり400万円から500万円、これが4台ないし5台とかに増えれば、その倍になっていくというふうなことです。ですから、私がそういったことも含めてスクールバス通学ではないところにきちんと中学校を残すべきだと、陵東、陵南の今のところに残してほしいのだという、その裏返しだというふうに考えています。不便な市内循環バスやJR左沢線通学の精神的苦痛、またこの経済的な負担についてお尋ねします。これも中学校統合の賛成意見にある提言です。利用率が低迷している市内循環バスやJR東日本の赤字路線と報道されている区間、すなわち左沢線の寒河江駅から左沢駅の区間で、赤字額は3億1,800万円と報道されています。先日、朝のYTS山形テレビの提言の広場で、左沢小学校6年生の皆さんが非常に興味深い提言を行っていましたが、これはイベントの企画でした。私が申し上げたいのは、この通学問題について、利用率改善とか赤字解消の手段にすべきでないというふうに市民からも多く意見があるわけですが、この件について御所見をお伺いします。

○佐藤志津男教育長

先ほども申し上げましたけれども、児童生徒の通学方法につきましては、計画改定後に統合準備委員会の中で検討をしてみたいと思います。統合中学校の建設地によって変わるわけですが、通学の方法については、スクールバスのほかにも市内循環バスやJR左沢線の利用についても検討をしていきたいと思っています。御指摘のとおり、赤字解消とか、そうしたことを第一に考えてというふうなことではなくて、通学に関わる児童生徒の負担が最小限になるように検討していきたいと考えているところでございます。

○渡邊賢一議員

今日のようにこの冬一番の寒さになると、ポイント故障でJRはいつ止まるか分かりません。そういった状況なども踏まえて、しっかりと検討いただきたいと思いますし、JRに頼るような通学に絶対しないでいただきたいということを要望したいと思います。

4. むすびに

この度は、私的には会派でお伺いして以来、10年ぶりの行政視察をさせていただくことができました。多くの資料をご準備いただいて、本当に感謝申し上げます。

魚沼市の素晴らしい自然環境で育つコシヒカリのように、児童生徒の皆さんの教育環境、特に学校統合による様々な課題を克服していかれると確信いたします。どうか、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、担当部局各課の皆様はじめ事務局の皆様に対しまして、お忙しいところ時間を割いていただきましたこと、衷心より厚く御礼申し上げます次第でございます。

様式第2号

視察研修先	新潟県十日町市	氏 名	渡 邊 賢 一
視察研修項目	「大地の芸術祭における廃校利活用(アート・宿泊、交流施設)の経緯や地域活性化等」について		

1. はじめに

十日町市は、新潟県南部の長野県との県境、千曲川が信濃川と名前を変えて間もないところに位置します。東は南魚沼市、北は小千谷市、西は上越市、南は湯沢町、津南町などと接しています。東京からは約 200 キロメートル、新潟市からは約 100 キロメートルの地点にあります。市域の東西は 31.4 キロメートル、南北は 41.1 キロメートルの広がりを持ち、面積は 591.33 平方キロメートルとなっています。

市の東側には魚沼丘陵、西側には東頸城丘陵の山々が連なっています。中央部には日本一の大川信濃川が南北に流れ、十日町盆地とともに雄大な河岸段丘が形成されています。また、西部中山間地域には渋海川が南北に流れ、流域には集落が点在し、棚田などにより美しい農山村の景観を呈しています。最南部は上信越高原国立公園の一角を占め、標高 2,000 メートル級の山岳地帯となっています。

十日町市では、多様な業種による経済活動が行われています。その中でも織物業は、1,500 年の伝統を持ち、全国有数のきもの総合産地として発展を遂げてきました。近年では、きものの修正加工業、食品製造業、電気・電子関連部品や自動車部品製造業、情報サービス業などの分野が活発に活動しており、地元の経済を支えています。農業では、十日町産魚沼コシヒカリをはじめ、そば、アスパラガス、枝豆、雪下人参、ユリ、また徹底した衛生管理が特徴の妻有ポークなど、多彩な農畜産物が生産されています。また、きのこの生産も盛んであり、十日町市のなめこ・えのき茸の生産量は全国トップクラスで、特になめこは国内生産量の約 15% を占め、全国一の実績を誇ります。近年では、ねぎ、かぼちゃなどの園芸作物の栽培や農山村であることを活かしたグリーンツーリズムへの対応、棚田を核とした地域振興など多様な活動を展開しています。

さらに、当間高原リゾートや大蔵寺高原キャンプ場など豊かな自然環境に包まれたアウトドアフィールドを生かした観光誘客や、大地の芸術祭「越後妻有アートトリエンナーレ」の里として現代アートを活用したまちづくりなどに取り組み、交流人口・関係人口の拡大を進めています。

今回は、まつだい「農舞台」及び廃校を利用した美術館「鉢&田島征三・絵本と木の実の美術館」を視察させていただくとともに、芸術や文化を活かした地域づくりの先例を是非学習させていただきたいと思いました。また、今後10年以内に現在ある中学校10校を1校に統合再編することも予定されていることから、今後の廃校利用の考え方なども是非伺ってみたいと思い、胸を弾ませて十日町駅構内の文化観光課会議室に臨ませて頂いた次第であります。

【資料】 めざすまちのすがた

「雪と生きる。大地に遊ぶ。未来を創造するまち とおかまち」

直近の推計人口 45,390 人 19,138 世帯(2026 年 4 月末)

一般会計 364 億円 2026年度当初

議員定数 19人

十日町市市議会だより

<https://www.city.tokamachi.lg.jp/material/files/group/2/gikaidayo90.pdf>

大地の芸術祭 トリエンナーレ2024

<https://www.city.tokamachi.lg.jp/soshiki/sangyokankobu/kankokor-yuka/geijutsusaikikakugakari/gyomu/1450417286731.html>

2. 視察内容

「人間は自然に内包される」を理念に、新潟県十日町地域の約 762 平方キロメートルの広大な土地を美術館に見立て、アーティストと地域住民とが協働し地域に根ざした作品を制作、継続的な地域展望を拓く活動を目的とする芸術祭である。大地の芸術祭は「交流人口の増加」「地域の情報発信」「地域の活性化」を主要目的としたアートプロジェクトである。題名にある「越後妻有」は、古くからこの地域が「妻有郷」と呼ばれたことに由来する。

大地の芸術祭は、地方創生のモデルとなっています。特に、アートによる地域づくりは、国内外の著名な芸術家が集落住民と交流を深めながら作品を制作し、地域住民が来訪者とともに交流できるものです。興味深い取り組みに、詳細にわたりご説明いただいた後、本常任委員会との質疑応答を行いました。

質疑応答(事前質問事項と回答など)

(1) 廃校利用で芸術祭の拠点となった経緯

2006年より空き家廃校プロジェクトを本格始動させ、「再び人が集まる場所」として思い出深い学校校舎を使って地域再生の核として出発させてきた。

(2) 芸術祭と結びつける場合の課題

① 地域住民との丁寧な対話と継続的な関係構築が重要

- ② 冬季休館の期間が長く、収益が限られる
- ③ 高齢化による担い手不足

(3) 「絵本と木の実の美術館」における合意形成のプロセス

- ① 芸術祭事務局(NPO 法人 越後妻有里山協働機構)による地域住民との継続的な対話と同意
- ② 絵本作家 田島征三氏が集落の人々と共同作品制作
- ③ 「自分たちの学校が生きている」「自分たちも作った」という協働制作の合意形成と当事者意識の醸成

(4) 芸術施設化後の地域住民の反応 変化

- ① 集落に来場者が訪れ、活気が戻る
- ② 3年に一度開催されることへの期待
- ③ 「地域の誇り」として再認識される

(5) 校舎改装リノベーションの費用・財源及び指定管理料

- ① 財源は国庫補助金及び芸術祭基金を活用
- ② 設計委託費等と工事費で清津倉庫美術館は 55,711 千円、奴奈川キャンパスは 9,834 千円
- ③ 指定管理料は、清津倉庫美術館 今年度 2,000 千円 奴奈川キャンパス 2,800 千円

(6) 多くの来場者が来た時の対応と課題

- ① 運営スタッフ・ボランティア不足と地域の高齢化
- ② 交通・駐車場整備と案内不足
- ③ 特定施設への集中と回遊性不足
- ④ 宿泊客の地域外流出
- ⑤ 外国人観光客インバウンド向けの受け入れ体制遅れ

(7) 残された課題

- ① 持続的な財源確保 補助金中心から自主財源確保へ
- ② 人材育成・人材確保
- ③ 観光受入体制と経済効果拡大
- ④ 作品の老朽化

さらなる成長を目指し、第 10 回展を進めていくという力強い決意が固められてい

る。素晴らしい取り組みであります。

【資料】大地の芸術祭オフィシャルツアー(バスツアー)

日程 令和6年 7 月 13 日(土)～11 月 10 日(日)の毎週土月曜

料金 【料金】一般(大学・専門学校生以上) 13,000 円

【料金】小学・中学・高校生 11,000 円

幼児(3 歳～5 歳)3,000 円 3 歳未満 0 円 ※食事・バス座席が必要な場合は幼児料金 (バス代、昼食代、ガイド代、消費税含む)

始点/終点 十日町駅

交通手段 貸切バス(南越後交通)

定員 25 名(最少催行人数:1 名)

主催 旅行企画・実施:新潟県知事登録旅行業地域 2-440 号
NPO 法人越後妻有里山協働機構

現地視察① まつだい「農舞台」

「都市と農村の交換」というテーマのもと、地域の資源を発掘し発信する総合文化施設。食、買い物、イベント、体験などのプログラムを通して、まつだいの雪国農耕文化を体感できる。また、建物や部屋それ自体が、複数の作家がデザインしたアート作品になっており、館内を巡るだけで現代美術を体感できる。周辺に広がる里山には、草間彌生「花咲ける妻有」をはじめ、世界的なアーティストの作品が点在しており、里山の大地に映える色彩豊かな造形、現代アートの魅力を里山の四季と共に堪能できる。大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレの 6 つのエリアのひとつである「松代エリア」の拠点として観光客を集めている。南側にある城山をはじめ、周辺の屋外にも作品が数多く展示されており、2021 年 7 月にはこれらを含めて『まつだい「農舞台」フィールドミュージアム』の名称でリニューアルオープンした。



【写真】2000 年に制作されたイリヤ&エミリア・カバコフによる恒久作品「棚田」

現地視察② 廃校を利用美術館「鉢 & 田島征三・絵本と木の実の美術館」

絵本作家、美術家の田島征三が、自らの思いを描いた物語を空間絵本として廃校になった十日町市立真田小学校の校舎に具現化した。絵本のタイトルは『学校はカラッポにならない』。真田小学校の最後の在校生3人を主人公に、流木や木の实、和紙を使ったオブジェで絵本の世界を表現している。美術館の位置する鉢集落では、第1回大地の芸術祭の頃からアーティストの積極的な呼び込みが行われてきた。



【写真】 真田小学校体育館に制作されたオブジェ

3. 所感

本市では、市政 70 周年にちなんでまちなか芸術祭を行った歴史がある。当時の朝日新聞の記事を見つけました。(2024 年 10 月 4 日朝日新聞より)

寒河江市の市制施行 70 周年を記念したアートイベント「SAGAE まちなか芸術祭」が 9 月 27 日から開かれ、アーティストと市内の伝統産業 4 企業がコラボした作品が街の各所に野外展示されるなど、街が普段とは違った顔を見せていた。

寒河江駅近くの「せせらぎ公園」では、園内の桜の木を、編んだ竹と草履のリボンで花束のように包んだ作品「wrap」が展示され、人と自然のつながりをテーマにするアーティストの長谷川仁さんと、手編み草履の製造・販売を手がける「軽部草履」とのコラボした作品で、女性職人の手仕事にインスピレーションを受けて制作した。

寒河江駅構内や市役所などにある立体作品「SAGAE カンシャノカタチ」は、くの字型の鉄の躯体(くたい)と畳が合体し、おじぎをしているような形が特徴。躯体は造形デザイナーの高橋綾さん、畳は「鏡畳店」の鏡芳昭さんが手がけた。「作品を通して畳の文化を伝えたい」と、作品の上部にある QR コードを読み込むと「畳の豆知識」へつながる仕掛けがある。鏡さんは「こんな形の畳を作ったのは初めて。作るのが難しく、夢に見るほど悩んで技術革新が起きました」と振り返る。

その他、山形市の画家・小林舞香さんと、「渋谷鯉のぼり」のコラボ作品などもある。また、市中心部の店舗のショーウィンドーがギャラリーに見立てられ、市出身の写真家・鬼海弘雄さんらの作品が展示される。他にも、市内の各施設で市ゆかりのアーティストの個展や、市民による写真・絵画・書道展などが開催されている。

イベントのアドバイザーを務める県出身の彫刻家・松田重仁さんは「普段見慣れたものも、作家の視点では違ったものに見えたりする。こうした試みが新商品の開発や人との交流につながっていけば」と語る。



【写真】「せせらぎ公園」園内の桜の木を編んだ竹と草履のリボンで花束のように包んだ作品「wrap」

さて、本市でも学校施設整備計画を踏まえて、廃校になる地域が増えていきます。学校がなくなることに対する地域住民の皆様の声は、大変シビアで計画が決定した今も、多くの反対意見をお聞きしています。本市の学校再編問題において今後の取り組みの方向性を見出すためにも大変参考になりました。

過去に参加した市民学習会では、和光大学の山本由美講師曰く「学校の原風景」とは子どもの安定した感情の成長・発達に「原風景」が持つ意味があるとおっしゃいました。地域を奪われて「デラシネ(根無し草)」になって、過疎化が急速に進みます。子どもの成長・発達にとって地域と学校が果たす役割が特に大きいのです。統合によってストレスとなる地域住民、特に子どもの精神的健康度が重要と先生が強調されました。

これまで、市民の声に基づいてさまざまな反対意見や不安な声をまとめ、専門家の分析に基づいた計画の問題点について、何点か一般質問で質問させていただきましたが、教育長答弁は、残念ながら市民が納得できる状況とはいいいがたいものでした。超党派の議員同士でも温度差があることは否めませんが、子どもたちの明るい未来のためにも粘り強くこの問題に向き合わなければなりません。議員政策研究会の苦難の道でしょうか。

一方で、齋藤市長がめざす寒河江のまちづくり、ひとづくりについては、「人にやさしく、人が集い、賑わい、楽しみ、豊かに暮らせる活気あるまちづくり」を目指すもので、地域住民との合意を得た廃校利活用が当然必要だと思います。

「さがえっこの明日への希望を実感するまちづくり」に対し、本市の学校整備計画には、今後終了まで約 20 年という長期間であり、まちづくりとの連動、企業等と連携する学校、コミュニティ・スクールのさらなる進化を続けるため、さらなる体制強化が不可欠です。

期待される「まちなか芸術祭第 2 弾 トリエンナーレ寒河江」についても、財源の確保はもとより人員体制を補強し、組織強化を図って進めていくべきだと思います。また、廃校利用を見据え、地域の皆さんとの対話を進め、さらに、児童生徒の皆さんが作品制作に関われる機会を多く作っていただければ幸甚です。

4. むすびに

この度は、行政視察をさせていただくことができました。十日町市議会福崎副議長様、事務局長様はじめ事務局の星名様、そして担当課の産業観光部文化観光課 山岸参事様はじめ職員の方々に対しまして、お忙しいところ時間を割いていただきましたこと、衷心より厚く御礼申し上げる次第でございます。

様式第2号

視察研修先	新潟県長岡市	氏 名	渡 邊 賢 一
視察研修項目	「子育てと防災の複合拠点施設の開所経緯や実情、役割」について		

1 はじめに

長岡市は、日本一の大河・信濃川が市内中央にゆったりと流れ、守門岳から日本海まで市域が広がる人口約 25 万人のまちです。過去、幾多の災禍に遭いながら、長岡の人とまちは、「米百俵の精神」で立ち上がってきました。そして、シティホールプラザ「アオーレ長岡」、「子育ての駅」など全国にさきがける人づくり、まちづくりを進めています。

米百俵の精神とは、戊辰戦争に敗れ困窮を極める長岡藩に、支藩の三根山藩から見舞いの米百俵が贈られました。時の大参事・小林虎三郎は、「食えないからこそ教育を」の信念でその米を売り、国漢学校開校の資金に充てたのです。長岡のまちづくりの指針や人材教育の理念となっています。

また、特に有名なのが日本 3 大花火のひとつ長岡花火です。昭和 20 年 8 月 1 日午後 10 時 30 分から 1 時間 40 分もの間にわたった長岡空襲。市街地の 8 割が焼け野原と化し、現在分かっているだけで 1,489 人の尊い命が失われました。毎年 8 月 1 日には慰霊祭、8 月 2 日・3 日の長岡まつり大花火大会が開催されています。花火大会で打ち上げる長岡花火には、長岡空襲で亡くなった人への慰霊、復興に尽力した先人への感謝、恒久平和への願いが込められています。

今回視察に訪れました 7 月 17 日は、偶然にもアニメーション映画「君と花火と約束と」が公開された初日という記念すべき日となりました。議会事務局長からご紹介された本作の舞台となるのは、例年数十万人の人々が煌びやかな花火を観に訪れる、新潟「長岡まつり大花火大会」です。私は、バスツアーの参加で一昨年に観賞し、ものすごい感動を受けました。今回の舞台となった長岡駅で記念に、小説一冊購入させていただきました。

【資料】

直近の推計人口 250,826 人 111,101 世帯(2026年 4 月末)

一般会計 36,705,000 千円 2026年度当初

議員定数 34人

長岡市市議会だより

<https://www.city.nagaoka.niigata.jp/shigikai/file/239.pdf>

2 視察事項

「子育てと防災の複合拠点施設の開所経緯や実情、役割」について

現地視察 子育ての駅「ぐんぐん」

こどもたちの成長と子育ての支援を目的に、多世代交流や子育て支援の輪を広げる拠点施設として、親子のふれあいや子どもの成長をはぐくむ事業運営を行っています。ぐんぐんの運営は、NPO 法人に委託されております。より一層の市民力を活かした運営を実施するために、2015年4月1日より「NPO 法人多世代交流館になニーナ」に運営を委託されました。誰もが気兼ねなく集える心地よい居場所となるよう、市民の意見をお聞きしながら、子育て世代に限らず多世代が交流できるような運営と、地域で子育てを支えあう環境づくりに努めています。

おえかきひろば

お絵かきや工作など
創作活動の場です。



えほんひろば

親子で楽しく
絵本を楽しめます。



ふれあいひろば

親子をはじめ様々な
世代の方々が
交流する場です。



交流ひろば

お弁当を食べたりお茶をのんだり
親子でゆっくり休憩できます。



あかちゃんひろば

ハイハイまでの赤ちゃんでも
安心して過ごすことができます。



※引用：子育て駅ぐんぐん HP より

【質疑事項】

- (1) ぐんぐん、てくてくの国の補助金について
国土交通省による公園整備の補助金対応によるもの
- (2) 利用者の声について
ミニキッチンによる食育イベントや世界の料理教室、長岡まつりにちなんだ花火飾り制作などが人気
- (3) ぐんぐんの相談件数や虐待予防、保護者の孤立防止について
件数は、把握されていないが、スタッフの積極的な声かけにより、親同士のきっかけづくりができ、コンシェルジュの方を訪ねて来るまで信用されている
- (4) 防災機能としての施設併設について
避難所を開設したことはこれまでないが、防災講座のイベントや消防署と隣接している効果を最大限活かしている
- (5) 災害時のマニュアルや施設のレイアウト変更の有無
レイアウト変更やマニュアルはないが、災害時は2階研修室に対策本部を設置する予定
- (6) 災害ボランティアセンター
開設していないが、訓練が必要と認識している
- (7) 災害時の妊婦や赤ちゃんの配慮
あんしん避難所への避難から福祉避難所への誘導必要
- (8) 避難所の備蓄物資
水・毛布・液体ミルク・母乳パットなど
- (9) 類似施設
なし ぐんぐんだけ

3. 所感

本市の陵東中学校が新中学校に統合され、跡地に「公立さがえ西村山医療センター」が開設される予定です。また、寒河江警察署や西村山消防本部の移転改築も今後予定されており、災害時の医療と救急の連携が重要な課題となっています。

一方で、子育て施設のクラッピン SAGAE と準防災道の駅ともいえるチェリーランドさがえは隣接しており、長岡市のぐんぐんと似た配置となっております。

こうした立地条件を最大限活かし、本市の子育てと防災の拠点を子育ての駅、防災の駅として今後も重要になってくることは当然であると思います。

私は、今年 3 月の定例会一般質問において、地域住民のいのちと財産を守る西村山消防本部体制拡充と消防団組織の充実強化について（1）西村山消防本部移転計画と地域医療の拠点となる新病院との連携について（2）防災道の駅登録について 質問しました。以下、抜粋して添付します。

○渡邊賢一議員 さて、消防本部の移転計画における候補地選定は、お話によると、昨年末までということでスケジュールにはあったそうなのですが、ぜひ新病院の建設計画を踏まえた新たな救急体制について、市長はどのように御検討されてきたのか、現在も検討されているのか、お伺いしたいと思います。

○齋藤真朗市長 ただいま渡邊議員からは、西村山広域行政事務組合の消防本部移転について、新病院の建設計画を踏まえて、どのように検討しているのかというような御質問をいただきました。西村山消防本部本署につきましては、西村山地域全体の消防を統括するとともに、寒河江市を中心とするエリアをカバーする消防署としての機能を有するということから、寒河江市が広域行政事務組合と協力しながら、移転用地を検討し、用地を無償貸与することとなっております。検討に当たっては、より人口の集中しているエリアをカバーしやすく、かつ西村山地域全体への出動がしやすいかという交通アクセスの視点、地震や大雨、洪水などに強いかという災害動向の視点、そして必要な機能を備えるための広さや形状が確保できるかという敷地条件の視点が特に重要であると考えております。今年度は、これらのことを鑑みまして、地権者との意見交換や地域住民の方からの意見聴取などにより、候補地の可能性について複数か所の検討を進めてまいりました。令和8年度につきましては、去る2月5日の西村山広域行政事務組合議会全員協議会においてお示ししました西村山広域行政事務組合事業計画に基づきまして、消防本部本署庁舎建設工事基本計画の策定を進めることとしております。この中におきまして、必要な機能や敷地の必要面積の検討を進めていくということにしてありますので、市といたしましては、西村山広域行政事務組合における基本計画の検討と連携し、足並みをそろえなが

ら候補地の選定と準備を加速させてまいりたいと考えております。

○渡邊賢一議員 ヒアリングでお聞きしたところ、防災ヘリの離着陸機能も出てきているのだということで、敷地面積は2万平米程度ということも伺っております。消防本部の消防救急機能を十分発揮するためには、そうした防災ヘリの離着陸のランデブーポイントの確保、また地域医療の中核拠点となる新病院に近いこと、また市長からありましたけれども、アクセス性ですね。国道 112 号線沿いで、かつ寒河江インターチェンジなどに近いところが、防災、救急医療の拠点としてもふさわしいのではないかと思います。候補地を決めて、またこれから計画の中で検討していくという御答弁であったと思いますが、さらに踏み込んだ御所見をお伺いしたいと思います。

○齋藤真朗市長 新病院に近い場所での立地がふさわしいのではないかとというような御意見でありますけれども、先ほど申し上げたとおり、候補地の選定に当たりましては、交通アクセスの視点、災害動向の視点、そして敷地条件の視点が特に重要であるということをお願いしました。加えまして、現在、消防本部で使用している消防緊急通信指令システムが更新時期を迎えておりまして、施設整備については時間的な制約というものがあることから、用地確保の円滑性についても十分配慮する必要があります。市といたしましては、さきに申し上げました視点を踏まえて候補地を選定し、スケジュールどおりに本部本署の移転を進めることができるよう検討してまいりたいと考えております。

○渡邊賢一議員 ぜひ検討を加速していただいて、市民の関心も高いわけですので、そうしたところに応えていただきたいと思います。

次に、防災道の駅登録についてでございます。先日、トルコ館の火災がありましたけれども、市民も大変驚きました。原因は不明とのことですが、幸いにも消防本部が近かったことで、初期消火で消し止められたとお聞きしました。道の駅については十分な防火体制が必要であります。また、いつ起きるか分からない直下型地震の対策も不可欠です。さて、国土交通省の防災道の駅は今後ますます重要になってきておりまして、県内では既に山形市の国道 13 号線沿いの道の駅やまがた蔵王、飯豊町の国道 113 号線沿いの道の駅いいでが登録されております。昨年4月に、国道 112 号線通行者が利用するトイレの機能に加えて、2輪ユーザーの休憩スペースや地域情報、道路情報の掲示スペースなど様々な機能を有する多機能型休憩スポットであるギャザリングスポットが完成しまして、バイク、自転車、障がいを持つ方や乳幼児を連れていらっしゃる方まで、112 号線を通行する全ての皆さんが使いやすく、そして滞留することから、地域活性化を目的として整備されたギャザリングスポットは好評でございます。ここで質問ですが、過去の一般質問で、前佐藤市長からは、さくらんぼ会館の県がフルーツステーションとしての機能を断

念したということで、その代替機能、また観光や防災におけるゲートウエーの機能も含めた整備の検討を御答弁いただきました。そこで、本市の道の駅寒河江についても、活断層に近く、寒河江川沿いで交通の要所となる 112 号線沿いで、国道 287 号に近く、新病院の建設予定地も近い、素晴らしい立地条件でありまして、チェリーランド再整備計画でさくらんぼ会館の改築整備検討などがスケジュールになっているわけでありまして、防災道の駅の登録条件はまさに整ったのではないかと思います、登録に向けた市長の御所見をお伺いします。

○齋藤真朗市長 現在、全国に道の駅が 1,231 駅あるということでありすけれども、このうち防災道の駅として国土交通大臣から選定されているのは 79 駅で、県内では2か所が選定されているということでありす。防災道の駅は、数年ごとに国土交通省が追加選定を行っておりますが、その際の選定要件としては、都道府県が策定する地域防災計画及び新広域道路交通計画に広域的な防災拠点として位置づけられていること、災害時に求められる機能に応じた施設体制が整っていることとなっております。道の駅寒河江については、市の地域防災計画において、緊急輸送道路ネットワークにおける輸送拠点として位置づけられていることから、令和元年9月に国土交通省と本市との間で、災害発生時に応急対策等を実施するための基本事項と、道の駅の防災活動利用の促進と啓発を目的とした基本協定を締結しております。また、道の駅寒河江には、道路情報提供装置や非常用発電装置が設置されていることから、県の新広域道路交通ビジョンにおいても、防災機能を備えた道の駅として位置づけられております。しかしながら、チェリーランド周辺については、北側を流れる寒河江川が氾濫した場合の浸水想定区域となっていることから、防災道の駅の選定要件の中で、ハザードエリアに存する場合は適切な対応が講じられていることとされているため、選定されるには何らかの対策が必要となります。これらの実情を踏まえながら、防災道の駅として選定を受けることが現実的に可能かどうか、また道の駅寒河江を防災拠点として機能させていく上で、防災道の駅として選定されることの必要性、効果も含めまして、関係機関と協議しながら十分検討してまいりたいと考えております。

○渡邊賢一議員 防災道の駅については、私個人的になのですが、ニセコの道の駅に行きまして、その機能を外側から拝見させていただきました。2,500 平米の駐車場が備えられていることとか、いざというときの建物の耐震化、無停電化、通信や水の確保などの災害時において業務可能な施設なのかどうか、そして何といたってもBCP、業務継続計画などがきちんと策定されているかどうかなど、ハードルがあるわけですが、1個1個クリアしていただきながら、あと寒河江川からの浸水というところも当然あるわけですが、ぜひ登録に向けて検討を加速というか、継続していただきたいということを申し上げたいと思います。

4. むすびに

この度は、長岡市の行政視察をさせていただくことができました。ご多忙のところ多くの資料をご準備いただき、本当に感謝申し上げます。

映画「君と花火と約束と」の主人公夏目まことや葉山あきのように、感受性豊かで故人の想いを受け継ぐべく長岡を舞台にした児童生徒の皆さんの子育て教育環境、特に万一の災害時の様々な課題を克服していかれると確信いたします。どうか、今後ともご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

最後に、現地視察を受け入れていただきました NPO 法人になニーナの保育士の皆さん、子育てコンシェルジュの方々、担当部局各課の皆様はじめ事務局の皆様に対しまして、お忙しいところ時間を割いていただきましたこと、衷心より厚く御礼申し上げる次第でございます。